PRESS RELEASE

SANDEN
INNOVATING COMFORT

2026年7月20日
サンデン株式会社

中期経営計画の重点施策　第 3 回:モノづくり活動
― グローバル展開するリーン生産で生産性向上と収益基盤を強化 ―

サンデン株式会社(本社:群馬県伊勢崎市、以下「当社」)は、中期経営計画の重点施策を紹介するシリーズの第 3 回として、リーン生産活動による生産性向上と収益基盤強化の取り組みについてお知らせします。

本リリースでは、以下の内容についてご紹介します。

① **リーン生産活動の考え方と展開状況**
② **主要施策による生産性向上と収益基盤強化**
③ **現場起点の改善活動による成果創出と数値効果**
④ **中期経営計画達成に向けた段階的ロードマップ**

当社は、中期経営計画において、収益力の強化と持続的な成長を重要課題として掲げています。モノづくり領域では、品質・コスト・納期に対する市場要求が高まる中、工程ロスの削減、生産性向上、品質の安定化を通じた製造競争力の強化に取り組んでいます。その中核となるのが、工程に潜むムダを可視化し、作業、物流、設備稼働などを継続的に見直すリーン生産活動です。

■ 主な改善成果(本リリースで紹介する事例)

改善対象	改善施策	主な効果	狙い
電動コンプレッサー製造工程	包装形態・作業動線・部品供給方法を見直し	作業者を 4 名から 3 名へ最適化(25%改善)	工程ロス削減と生産性向上
HVAC 製造工程	改善週間により課題抽出から実行まで短期集中で推進	サイクルタイム約 11%短縮、生産性約 14%向上※	改善活動の標準化と横展開

※生産性は、作業者 1 人当たりの生産量を基準に算出し、改善前と比較しています。

● リーン生産活動の考え方

リーン生産とは、工程に潜むムダを可視化し、付加価値を生まない作業や工程ロスを削減することで、生産性と品質の向上を図る生産活動の考え方です。

当社は、リーン生産を国内外の生産拠点で共通して活用する改善モデルとして整理し、現場が継続的に課題を発見し、改善できる仕組みづくりを進めています。

主な基本方針は以下のとおりです。

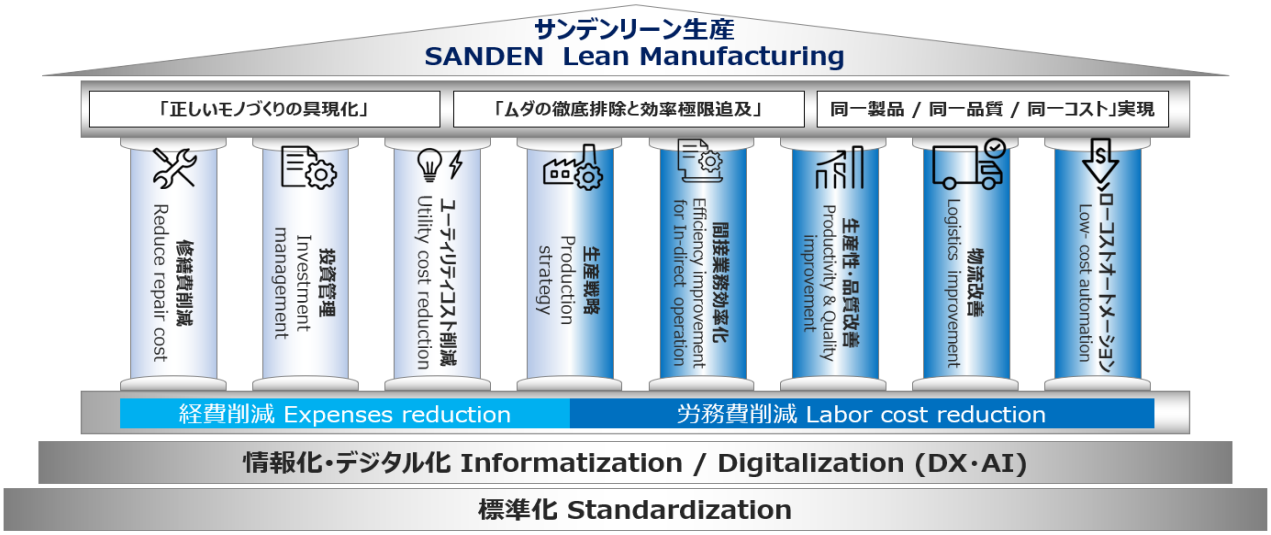
- ムダの可視化と削減
- 現場主導の継続的改善
- データに基づく工程分析と意思決定
- 改善手法の標準化と人材育成

リーン生産活動の基本方針

これらの基本方針に基づき、製造工程にとどまらず、物流、設備保全、エネルギー管理、間接業務を含む製造領域全体を対象に改善を進めています。

● 主要施策によるリーン生産活動

サンデンのリーン生産活動は、標準化、情報化・デジタル化を共通基盤として、修繕費改善、投資管理、生産戦略、生産性・品質改善など、モノづくりに関わる各施策を連携して推進するものです。全体像は以下のとおりです。



サンデンリーン生産の全体像

また、各施策は、「コスト競争力の向上」「生産体制の最適化」「生産性・品質の向上」の 3 つの重点テーマに整理しています。

各施策は、サプライチェーン、工場運営、組織運営を横断して連携させ、作業工数、物流動線、設備稼働、エネルギー使用量などを総合的に見直しています。

重点テーマ	分野	具体施策
コスト競争力の向上	修繕費改善	保全業務の内製化、調達方法の見直し
	投資管理	投資優先順位の明確化、投資効果の検証
	ユーティリティ削減	エネルギー使用量の可視化、省エネ施策の推進
生産体制の最適化	生産戦略	生産体制および内外製の見直し
生産性・品質の向上	間接業務効率化	業務プロセスの見直し、役割分担・人員配置の適正化
	生産性・品質改善	設備稼働状況の可視化と保全活動の強化による生産性・品質の向上
	物流改善	動線分析、停滞要因の把握、搬送工程の見直し
	ローコスト自動化	協働ロボット、無人搬送車などの活用による作業効率化

● 現場起点の改善活動による成果創出

当社では、VSM（Value Stream Mapping）などの改善手法を活用し、生産工程全体を可視化するとともに、作業内容や物流動線、設備稼働状況を分析することで、ボトルネックやムダの解消を進めています。

※VSM（Value Stream Mapping）：工程全体を可視化し、付加価値を生まない作業や停滞を特定することで、生産性向上を図る改善手法。

■ 改善事例：VSM による電動コンプレッサー製造工程の改善

電動コンプレッサーの製造工程では、VSM による分析を通じて、物流および作業工程を見直しました。分析の結果、部品の個別包装により、開梱作業に多くの時間を要していることが明らかになりました。

そこで、包装形態を個別包装からパレット単位へ変更するとともに、作業動線や部品供給方法を見直しました。その結果、作業者を 4 名から 3 名へ最適化し、作業人数を基準に 25%の効率改善となりました。あわせて、一連の作業・物流工程の見直しにより、設備稼働や品質面での抑制にもつながっています。

主な改善効果

- **包装形態の見直しによる開梱作業の効率化**
- **作業者を 4 名から 3 名へ最適化（25%改善）**
- **作業・物流工程の見直しによる工程ロスの抑制**
- **創出工数の再配置による生産性向上**

■ サンデン独自の「改善週間」による短期集中型の改善活動

当社では、製造、生産技術、工程改善、品質などの関係部門で構成する部門横断チームにより、短期集中型の改善活動「改善週間」を実施しています。

改善週間では、1 週間で現状把握から改善実行、効果確認までを行います。期間内に完了しなかった項目については、30 日間の実行計画を策定し、継続的に進捗を管理します。

改善期間	改善ステップ	実施内容	期待効果
Day1	現状把握・課題設定	生産性・作業負荷・工程を分析	改善余地の明確化
Day2	ムダの見える化・分析	インタビュー等によりムダを特定	非効率作業の削減
Day3	改善実行	優先度の高い改善項目を実行	生産性向上
Day4	効果確認	作業時間・負荷・配置の改善効果を確認	コスト競争力の向上
Day5	定着化・今後の展開	改善内容を定着化し、今後の展開を整理	改善効果の定着

HVAC 製造工程では、11 項目の改善策を抽出し、このうち 7 項目を期間内に完了しました。作業負荷、搬送動線、部品供給方法、付帯作業などを見直した結果、以下の改善効果を確認しました。

主な改善効果

- **作業・搬送方法の見直しによるサイクルタイムの短縮（約 11%）**
- **工程ロスの削減による生産性向上（約 14%）※**
- **作業者を 5 名から 4 名へ最適化（20%改善）**
- **作業の見直しによる時間外作業の解消**

※生産性は、作業者 1 人当たりの生産量を基準に算出し、改善前と比較して約 14%向上しました。

これらの事例で得られた分析手法や改善ノウハウを標準化し、他工程や国内外の生産拠点へ展開することで、中期経営計画で掲げる収益力向上への貢献を目指します。

● 中期経営計画達成に向けた段階的ロードマップ

当社は、個々の工程で得られた改善成果を継続的な競争力強化につなげるため、リーン生産活動を段階的に高度化していきます。

第 1 段階「基盤構築」

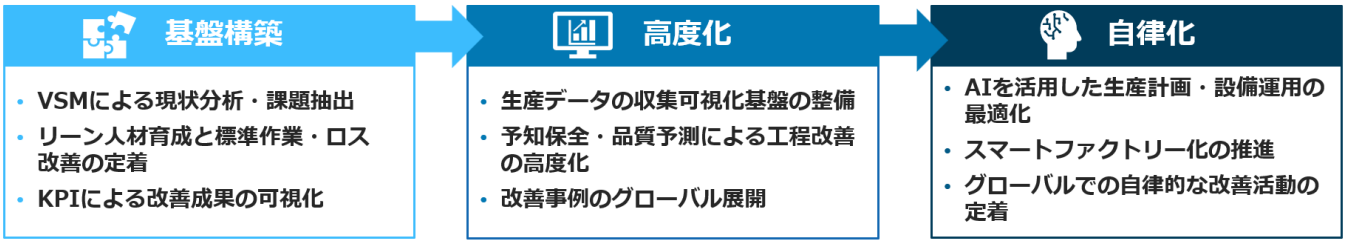
VSM による現状分析、リーン人材の育成、標準作業・ロス改善の定着、KPI による改善成果の可視化を進めます。

第 2 段階「高度化」

生産データの収集・可視化基盤を整備するとともに、予知保全や品質予測を活用し、工程改善の精度と実効性の向上に取り組みます。また、各拠点の改善事例を共有し、グローバルでの横展開を進めます。

第 3 段階「自律化」

AI を活用した生産計画や設備運用の最適化、スマートファクトリー化を推進するとともに、各拠点が自律的に改善活動を継続できる体制の構築を目指します。



リーン生産活動の段階的ロードマップ

これにより、第 6 回で紹介予定の IT 基盤強化とも連動し、現場改善とデジタル活用を一体で進めます。スマートファクトリー化を通じて、グローバルで再現性の高い生産モデルの構築を目指します。

当社は、このロードマップに基づき、現場改善とデジタル活用を組み合わせながら、製造原価の低減と収益基盤の強化に取り組み、中期経営計画の達成を目指してまいります。

● モノづくり本部長コメント

モノづくり本部長

当社の競争力の源泉は生産現場にあります。モノづくり本部では、リーン生産活動を中期経営計画における収益力向上の重要施策と位置付け、グローバルで展開しています。

目指すのは、単なるコスト削減ではなく、お客様へ価値を届けるプロセス全体を継続的に改善していくことです。そのために、改善活動の標準化、人材育成、デジタル活用を組み合わせ、各拠点で再現可能な生産モデルの構築を進めています。

今後も、安全・品質・生産性の向上に取り組むとともに、改善活動で創出した人材・工数を成長領域へ再配分し、グローバルで再現性の高いモノづくり基盤の構築を目指します。これらの取り組みを通じて、中期経営計画で掲げる収益力向上と持続的な企業価値向上に取り組んでまいります。

次回は、人材育成活動として、中期経営計画を支える教育・研修制度の取り組みについて紹介します。

※本リリースに記載されている計画、目標および今後の取り組みに関する記述は、現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する前提に基づくものであり、今後の事業環境等の変化により実際の結果とは異なる場合があります。

本件に対するお問い合わせ
サンデン株式会社　総務本部　広報・IR 担当
Tel：03-5828-5582　Email：sdhd.prcsr.jp@g-sanden.com　Web：https://www.sanden.co.jp/